

令和元年度事業計画・収支予算

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

歴史街道推進協議会

令和元年6月

目 次

I. メインルート事業	…… 1
II. ネットワークエリア事業	…… 4
III. 日本文化体感プログラム事業	…… 5
IV. フォーラム・展示事業等	…… 8
V. 歴史街道倶楽部事業	…… 9
VI. 広 報	…… 1 1
VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施	…… 1 3
VIII. 協議会運営	…… 1 3
令和元年度 事業支出予算	…… 1 4
令和元年度 収支予算書	…… 1 5

令和元年度事業計画・収支予算

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

I. メインルート事業

(事業目的・方針)

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指す。

(事業項目)

1. 地域連携事業

(1) 関西5私鉄連携企画の推進

- ・関西5私鉄と連携して実施していたスタンプラリーは、事業項目2. 地域共同事業 歴史街道スタンプラリーと統合する。
- ・朝日・五私鉄リレーウォークにおける連携を継続し、歴史街道計画のPRを強化する。

(2) 伊勢～飛鳥間連携事業

- ・日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体等とフォーラムを実施する。
- ・街道ウォークなどを関係団体と連携して実施する。

(3) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

- ・本年度は、連携する各自治体にゆかりの「人と物語」をテーマに、「歴史街道 飛鳥～奈良～京都 地域連携実行委員会」としての商品を造成し、旅行会社に採用してもらうよう働きかける。
- ・これまでのリレーウォーク&講演会の成果を活用した旅行商品の提案も行っていく。
- ・同時に連携自治体増強に努めるとともに、同実行委員会の規約を改正する。
- ・同実行委員会の会長は、本年度より天理市から橿原市に交代。

(4) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

- ・エリア内の関係先によるワーキングを開催し、これまでの講演会やリレーウォークを振り返りながら、必要に応じて新たなイベントを実施する。
- ・連携博物館、資料館等のニーズを調査し、共同広報等を試行する。

(5) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

- ・京阪ホールディングスや当地域の自治体の協力を得て、京街道を紹介するマップの改訂作業を実施する。

(6) 各地の観光ガイド組織の活動を応援する事業

- ・各地の観光ガイド組織のミーティングを継続し、ガイド実施方法等ノウハウ

の共有を図るとともに、共通の課題解決を図る。

- ・各地の観光ガイド組織の活動内容を収集し、協議会ホームページやメールマガジンなどで情報発信する。
- ・本年度は、2018年観光ガイド秋季案内キャンペーンに参加した22団体に加えて、大阪・奈良歴史街道リレーウォーク「第五幕 街道沿いの伝統産業やグルメを訪ねて」に参加する11団体と連携し、歴史街道・リレーウォーク共通リーフレットを作成する。
- ・情報量を充実させ、歴史街道エリアでの観光ガイド組織の情報発信を強化する。
- ・リーフレットは、春、秋2回作成し、鉄道主要駅に配架する。

(7) 阪神高速道路イベントへの協力事業

①事業名称「阪神高速で行こう！歴史めぐりスタンプラリー」

②実施期間3月21日（木）～9月30日（月）

③スタンプポイント

阪神高速道路パーキングエリア

歴史街道スタンプ設置箇所

（大阪城天守閣、適塾、国立文楽劇場、岸和田だんじり会館、堺市博物館、神戸市総合インフォメーションセンター、神戸市北野観光案内所、有馬温泉観光総合案内所 8箇所）

④スタンプ台紙設置箇所

阪神高速道路パーキングエリア、JTB店舗窓口、歴史街道iセンター

⑤賞品

先着1,000名 歴史街道缶バッジ2種類・シール、阪神高速クリアファイル

抽選 400名 阪神高速黄パト プルバックミニカー

抽選 400名 阪神高速もぐらのコージくんぬいぐるみ

予算 1,700千円 (H30:3,380千円)

2. 地域共同事業

(1) 歴史街道スタンプラリーの再開

（関西5私鉄スタンプラリーとの一本化）

自治体および関西5私鉄（近鉄、京阪、南海、阪急、阪神）の共同事業として歴史街道エリア、5私鉄沿線の魅力を発信するイベントを開催する事で周遊促進を図る。

①実施期間 2019年9月1日（日）～2020年5月31日（日）を予定

②スタンプ押印

i 古代史～奈良時代、ii 平安～室町時代、iii 戦国時代～近代と時代を3区分し、各時代区分2個、計6個のスタンプを集めて完成とする。

③スタンプ設置

i. 共同事業参加市町村

ii. 関西5私鉄が指定する沿線の2自治体

	時代 区分	共同 事業	近鉄	南海	阪急	阪神	京阪
i	古代史	伊勢市 桜井市 明日香村 斑鳩町 天理市 堺市	藤井寺市				
	奈良 時代	奈良市(4)					
ii	平安～ 室町	宇治市 京都市(7)	吉野町	高野町			大津市 八幡市
iii	戦国～ 江戸	京都市 大阪市(3) 姫路市 岸和田市		和歌山市	大山崎町	尼崎市 西宮市	
	近代	神戸市(3)			宝塚市		

※表中の（ ）内の数字はスタンプの種類。

※スタンプデザインは、古代史～奈良時代で11種類、平安～室町時代で12種類
戦国～近代で14種類となる。

④賞品

- i. 6箇所達成者全員に粗品
- ii. 3カ月に1度抽選で地元産品
- iii. 期末に抽選で宿泊券
- iv. 期末に抽選で5私鉄賞

予算 4,000 千円 (H30:200 千円)

3. ツアー開発 (インバウンド関係)

関西観光本部の取り組みに合わせて、積極的に提案を継続し、必要に応じて映像等のツールを作成する。

予算 500 千円 (H30:500 千円)

II. ネットワークエリア事業

(事業目的・方針)

1. 南北近畿エリアの活性化
2. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

(事業項目)

1. 関西を南北3つに分けた連携推進＝南北近畿の振興

事業項目	歴史街道2号 (紀伊山地の霊場と参詣道)	歴史街道3号 (北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊)
1. 地域整備・まちづくり・ルート形成	歴史街道モデル事業<田辺市(本宮地区・口熊野地区)、橋本市、新宮市、那智勝浦町、高野町、紀の川大和街道地区、吉野町、西熊野街道周辺地区(五條市、天川村、十津川村、野迫川村)の継続充実を目指し、各地事業のフォローアップや国への要望活動に取り組む	①「環状高速」による地域連携支援と、歴史街道モデル事業<大津市、甲賀市、近江八幡市、彦根市、南越前町(今庄地区・南条地区)、あわら市、永平寺町、北丹後地区、口丹後地区、豊岡市、朝来市、丹波市、篠山市、高槻市、乙訓八幡地区)の継続・充実を目指し、各地事業のフォローアップや国への要望活動に取り組む ②日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の活動充実を図る
2. キーパーソンネットワーク	「紀伊半島交流会議」の発展に取り組む(メーリングリストの活用)	「北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊を作ろう会」の発展に取り組む(メーリングリストの活用)
3. 地域施設等ネットワーク	観光案内所(33か所)や道の駅等とのネットワークの維持に努める	観光案内所(33か所)や鉄道駅、博物館・資料館、伝統的建造物群保存地区とのネットワークの維持に努める
4. ツアー	歴史街道倶楽部などと協働し、各地ツアーを実施する	歴史街道倶楽部などと協働し、各地ツアーを実施する
5. 広報活動(魅力整理)	3つの聖地、4つの絶景、5つの古道、6つの温泉、7つのパワースポットの告知に努める	「北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊」各エリアごとの「1日コース」や「5泊6日フルコース」の告知に努める
6. 紙媒体	月刊「歴史街道」などにおける情報発信に取り組む	「QRコード入りMAP」の引き続きの普及や、月刊「歴史街道」や鉄道会社パンフレットなどにおける情報発信に取り組むほか、全体パンフレットのリニューアルを検討する
7. 映像	ケーブルTV番組の制作や旅の星映像の蓄積に努める	ケーブルTV番組の制作や旅の星映像の蓄積に努める
8. ネット系	10言語HPのさらなる充実を目指す(私のおすすめコーナーの充実、環境庁大阪事務所のイベントカレンダー・近畿地方整備局の紀伊半島HPとの連携など)	10言語HPのさらなる充実を目指す(体験メニューコーナー・伝統的建造物群保存地区紹介コーナーの新設、高速道路割引きキャンペーンとの連動など)
9. イベント・シンポジウム展示	大阪での「紀伊山地三霊場フォーラム」を継続する	中京圏で実施したプロモーション映像のYahooインフィード広告の継続実施の検討
10. メディアとの関係強化	東京・名古屋・大阪における共同「メディア訪問」の再開を検討する	東京・名古屋・大阪における共同「メディア訪問」の再開を検討する

2. 中央部（メインルート以外）

- (1) 播磨地域、南大阪地域を中心に月刊「歴史街道」や鉄道パンフレットなどを中心とした情報発信に努める。
- (2) 百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録に協力する。
- (3) 姫路城における「世界遺産リレー催事」の実施に協力する。
- (4) 関西観光本部との連携により、岸和田だんじりなど関西の祭紹介を検討する。

3. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録への協力や遺産ごとの事業推進、国への要望活動等を連携していく。

予算 800千円（H30:1,200千円）

Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業

（事業目的・方針）

本プログラムの実施により、グローバル人材の育成と周遊人口の拡大、外客誘致（インバウンド）効果を目指すため、講義コンテンツおよび体験型活動の充実、多様なニーズに対応するパッケージ提案力の強化、実施体制の整備に取り組む。

（事業項目）

1. 日本の歴史文化を伝える講義コンテンツの充実および体験型活動の充実

- (1) 日本政府が招致した外国人に対し、英語のみならず、その母国語で日本文化を伝えるコンテンツの充実
- (2) 社員・職員向け、学生・一般向け等、研修目的にマッチした講義資料の整備、および体験型活動の拡充
- (3) 講義・現地体験ガイド資料のこまめなアップデート など
定期的に講師・ガイドミーティングを開催し、講義資料の改善や情報共有を実施（年3回（提案→審議→共有）を目安に、必要に応じて追加開催）

2. 顧客の多様なニーズに対応するパッケージ（講義と体験型活動）提案力の強化

- (1) 海外（インバウンド）向けプログラムの充実
 - ① JICA（国際協力機構）が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラムについては、JICAおよびPREX等研修事業者との連携を維持し、年間約50件の維持を目標とする。
（※第9期中期計画：インバウンド既存事業）
 - ② 関西観光本部、大阪観光局、旅行会社や財団等との連携により、海外の中学・高校・大学からの教育旅行、海外企業のインセンティブツアー等への本プログラムの組込み提案を積極的に実施する。
（※第9期中期計画：インバウンド新規事業：日本文化体感PGR版ツアーの基盤作り国内新規事業：教育旅行コンテンツの基盤作り）

(2) 国内向けプログラムの充実

①企業等におけるプログラムの実施

- ・大手企業の海外赴任者向けの事前研修に組み込んだ講義内容を関西の地元中小企業の海外赴任者にも展開すべく、商工会議所等の研修実施団体との連携による本プログラムの展開を図っていく。
- ・会員企業・団体向けの研修や体験会の実施、新規研修事業者向け講座などの実施拡大も目指し、継続的な新規開拓を進める。(目標：年間1件)
- ・対象範囲の裾野を広げるため、講義コンテンツを活用し社会人の勉強会等への出張講義も展開する。

(※第9期中期計画：国内既存事業)

②大学、高校などにおけるプログラムの実施

2025年の大阪・関西万博開催時に国際交流の主役として活躍が期待される現在の大学生、高校生に向けたプログラムを積極的に推進する。

- ・首都圏の留学生を対象に関西での日本の歴史文化を体感するプログラムを8月～11月に実施する。(日本万国博覧会記念基金事業 助成金交付決定)
- ・地元高校生の国際交流を推進すべく、関西に留学している大学生を交えて歴史文化を体感するプログラムを夏休み期間中に実施する。

(子ども夢基金 助成金交付決定)

- ・大学(観光学部、国際教養学部、経営学部、文学部等)や高校(短期海外留学生等)の日本人および外国人留学生向け講座の実施拡大を目指し、継続的な新規開拓を進める。(目標：年間1件)

(※第9期計画：国内既存事業)

③通訳案内士、一般向けプログラムの実施

- ・関西の魅力を伝えていただく通訳案内士への情報提供を目的に、関西観光本部と連携し、首都圏、関西それぞれにて本プログラムを展開する。旅行閑散期となる12月～翌2月に首都圏は2回、関西は1回実施する。
- ・公共図書館、各種カルチャーセンターの協力を得て、広く一般の方々を対象に日本の歴史・文化を振り返り、地元地域についての理解を深める機会を提供する。京都は1回、大阪は1回、首都圏は2回実施する。

3. 実施体制の整備

(1) 講義講師の育成、人材確保と多言語対応力の強化(中国語を新規加入)

- ・講師7名(内部2名、外部5名)体制にて継続運営していく。
- ・講義言語は、日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語を常時対応。資料は、国連公用語を軸に翻訳版を整備。

常時更新(日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語)

必要時更新(ロシア語、アラビア語)

(2) 会員企業・団体、地域ガイドなどの協力体制整備

- ・状況に応じ、地域ガイドと協業。

(3) ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士との協力体制の強化

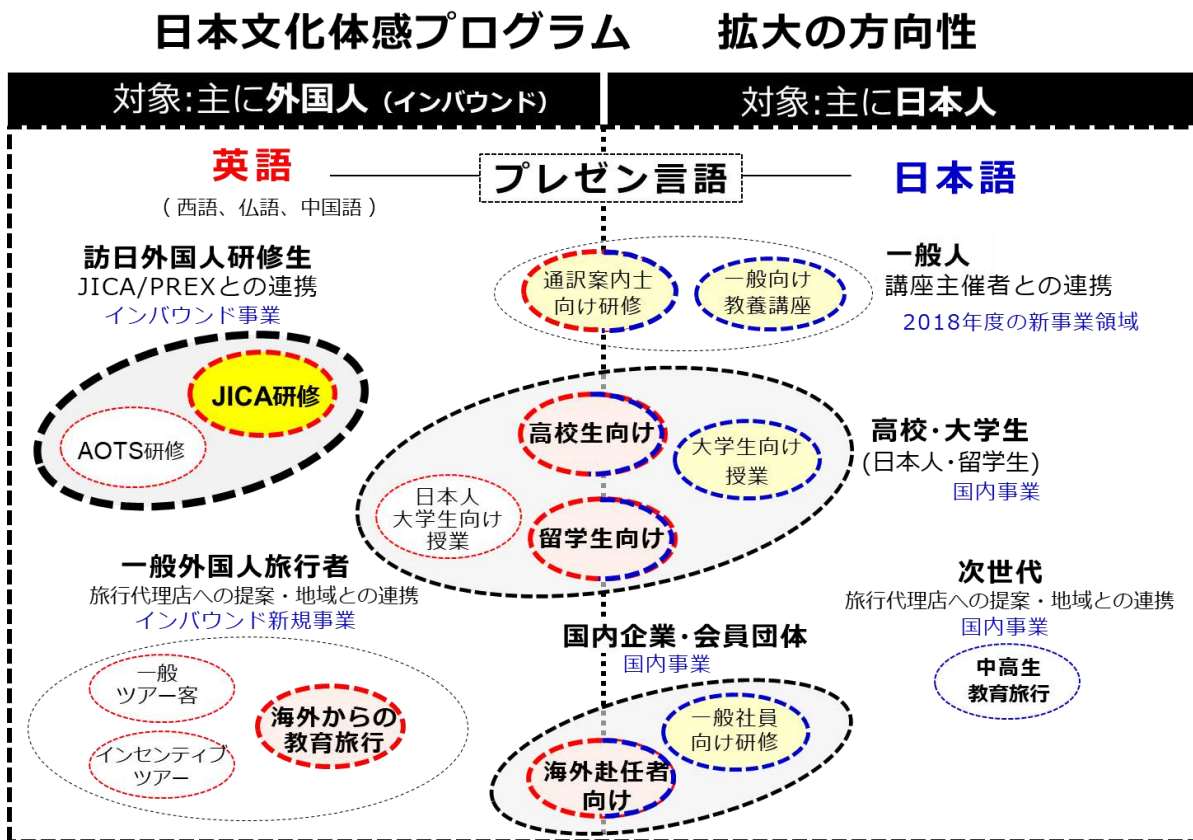
- ・資料改善のための意見交換や情報共有、協力体制の維持を目的に講師ミーティングを実施。

4. 日本文化体感プログラムの広報

- (1) WEB、SNSを活用した発信（協議会HPの更新とあわせて実施）
- ・コース案の提示
 - ・事業実績の紹介
- (2) 展示などを活用した発信
- ・道の駅、歴史街道iセンターを活用したインバウンド向けPR展示（巡回・パッケージ作り）
 - ・地域のガイド団体との連携+全国通訳案内士との連携
メインルート6拠点におけるガイド講習会の実施

5. 事業拡大に向けた活動の方向性（第9期計画の全体像）

下記分野において検討・試行を継続しながら、本年度も訪日外国人研修員向けのプログラムを主体にしつつ、大学、高校、会員企業・団体への提案に注力し、新規事業展開を目指す。



予算 6,530千円 (H30:3,500千円)

IV. フォーラム・展示事業等

(事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産等につわる見聞を通じて、地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

(事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示

- ・本年度は、百舌鳥古市古墳群をテーマに実施。
- ・講演は、7月14日(日)実施分を羽曳野市に依頼、7月21日(日)実施分を堺市に依頼。
- ・展示は、7月2日(火)～28日(日)で実施予定。

2. 歴史文化フォーラムの開催(文化庁地域文化創生本部、関西広域連合共催)

- ・本年度は、百舌鳥古市古墳群をテーマに実施。
- ・フォーラムは、9月28日(土)に実施予定。

3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催(紀伊山地三霊場会議共催)

- ・前年度、台風の影響で中止になったため、本年秋に再演を予定。

4. 各種展示

- ・関係団体等と連携し、適宜検討、企画、実施する。

5. 子供向プログラム

- ・ターゲット 小・中学生
- ・目 標
 - ①歴史に親しみを持っていただく。
 - ②近畿・関西圏の集約された歴史文化遺産を知っていただく。
 - ③生涯を通じて歴史文化の現地を旅していただく。(現地に触れていただく)
- ・開 発
 - ①奈良教育大学などの教育機関や地域の文化施設、観光ボランティアガイド等とともに、新しい企画を開発し、試行する。
 - ②自治体等で実施する事業の情報を収集し、新企画開発に活かすとともに、データベースの蓄積を図る。
- ・資金獲得
独立行政法人国立青少年教育振興機構が運営する「子どもゆめ基金」に応募し、事業運営資金の獲得を目指す。(2019年度2次募集は、8月以降)
- ・予 定
 - ①4月27日(土) 奈良市「まんじゅうを食べるなら(奈良)」 20組40名
 - ②6月 1日(土) 葛城市「葛城の不思議と拍子木」 15組30名

予算 2,950千円 (H30:2,030千円)

V. 歴史街道倶楽部事業

(事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力する。

また、令和元年度は、歴史街道倶楽部発足25周年を迎え、会員誌『歴史の旅人』は秋号の発行で100号となる。この機会をとらえ、関西はもとより首都圏においても積極的に情報発信を行う。

(事業項目)

1. 会員誌『歴史の旅人』の発行

(1) テーマ、地域を選定した特集を設定し、春号、夏号、秋号、冬号の年4回発行。

秋号は歴史街道倶楽部発足25周年、100号記念特集号とする。

(2) 会員誌の有効活用

昨年度に引き続き、公共図書館や関係団体の文化施設等に寄贈し、閲覧誌として多くの方々の目に触れるようにする。あわせて首都圏への展開を図る。

2. イベント

(1) イベントの実施

京の旅(夏・冬)、歩いてたどる歴史街道の旅シリーズ、五感で体感!にほん文化シリーズ(近鉄文化サロン共催)など人気イベントの継続実施に加え、会員誌の特集地域での実施、伝統芸能鑑賞会、セミナーなど、旬のテーマや会員のニーズに沿った、「歴史街道ならでは」のイベントを実施する。

また、歴史街道倶楽部発足25周年を記念して、会員交流会を開催する。

(2) オープンイベントの実施

新規会員獲得につながるよう、オープンイベントを実施し、参加間口を拡大する。

(3) 首都圏企画の継続開催

奈良まほろば館共催セミナー、伝統芸能鑑賞会、歴史ウォークを継続して開催するとともに、新たな共催セミナーの開催などで、首都圏での認知度向上と新規会員獲得を図っていく。協議会会員団体の東京事務所等に働きかけ、施設等での協議会情報発信を依頼する。

(4) 他団体との連携

近鉄文化サロン、近畿文化会、奈良まほろば館との共催講座に加え、他の会員団体とも連携を図る。

3. 会員増強

(1) 入会促進キャンペーンの実施

新規会員獲得を目指し、入会金無料キャンペーンを実施する。

(2) 特別賛助会員募集

より深く歴史街道を支援していただくため、入会促進キャンペーンにあわせて、特別賛助会員の募集を行う。

(3) イベント会場での会員募集

歴史街道推進協議会および協議会会員団体が実施する講演会、展示、ウォーク等の会場で会員募集を行う。

(4) 協議会会員団体における各種媒体での情報発信、入会案内チラシ配架、OB会等への働きかけ、イントラネット、関連雑誌、フリーペーパー等での会員募集記事の掲載や、各団体のOB会等において歴史街道倶楽部会員の募集を行う。また、主要駅等での入会案内チラシの配架を依頼する。

4. Webによる積極的情報発信

協議会ホームページ改訂にあわせて倶楽部ページの見直しを図る。

5. ボランティアスタッフ

スタッフ会議への参加、会員誌『歴史の旅人』の編集企画、原稿執筆、イベント企画、運営のサポートをしていただくボランティアスタッフを随時募集する。

- ・定例会議の開催：年4回開催（4月、7月、10月、1月）
- ・テーマ別会議：随時開催
- ・フォーラム活動：歴史街道倶楽部会員が、自らテーマを設けて運営するグループ。「フォーラム活動」等を通じて、口コミによるPR活動を展開。活動中のフォーラムは「湯けむりの仲間」、「鉄道廃線フォーラム」、「歴史体感ウォーキング峠を越えて」「旅カフェ・まちあるき」。

予算 17,020 千円 (H30:17,020 千円)

VI. 広 報

(事業目的・方針)

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

(事業項目)

1. 情報発信

(1) マスコミ、関係者向けの情報提供

- ①メールマガジン「歴史街道なう」(毎月第4木曜日)の発信
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況等を発信する。
- ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
- ③歴史街道情報交換会(歴史街道市町村共同事業)開催
- ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加

(2) 一般向けの情報提供

- ①メールマガジン「DO楽」(毎月第2木曜日)の発信(配信先約6,000件)
- ②月刊「歴史街道」における記事掲載(共同事業参加市町村の優先的掲出)
- ③CATVリレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
- ④関西5私鉄の沿線情報誌等、会員企業の媒体での掲出
近鉄ニュース、阪急TOKK等(共同事業参加市町村の優先的掲出)
■近鉄ニュース(近鉄沿線情報誌)月別掲載予定(2019年度)

掲載月号	4月号	5月号	6月号	7月号	8月号	9月号
掲載自治体	事務局			奈良市	桜井市	天理市
掲載月号	10月号	11月号	12月号	1月号	2月号	3月号
掲載自治体	斑鳩町	事務局		明日香村	伊勢市	事務局

■阪急TOKK(阪急沿線情報誌)月別掲載予定(2019年度)

掲載月日号	4/1号	5/1号	6/1号	7/1号	8/1号	9/1号
掲載自治体	高槻市	箕面市	事務局	吹田市	西宮市	京都市
掲載月日号	10/1号	11/1号	12/1号	1/1号	2/1号	3/1号
掲載自治体	大山崎町	姫路市	神戸市	宝塚市	猪名川町	茨木市

- ⑤歴史街道iセンター(情報発信拠点42箇所)での掲出

(3) 協議会会員団体の媒体との連携

会員団体の支援を得て、各団体の様々な媒体との連携広報活動を行う。

- ①会員団体HPへの協議会ロゴ(含歴史街道計画を応援しています)の掲出依頼

②各社のイントラネット、社内報、PR誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道 i センターの活性化

歴史街道 i センターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。
定期的訪問等により情報発信ポイントとしての維持・活性化を図る。

※歴史街道 i センターの機能

- ・歴史街道に関する情報の提供や事業への協力
- ・歴史街道の主催、後援事業等のパンフレット、チラシの配布
- ・共同事業参加市町村等の観光パンフレットの配布
- ・歴史街道のぼりの掲出（協力いただける施設のみ）
- ・歴史街道案内映像の上映（協力いただける施設のみ）

(5) 会員団体等が実施する事業への協力

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

（目標件数150件、前年度比約1.4倍）

(6) 歴史街道シンボルステッカーならびに Welcome ボードのメンテナンス

アンケート等により貼付団体の意向を確認し、必要に応じてメンテナンスを実施していく。

(7) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける。
特に、今年度は首都圏での情報発信について検討・試行していく。

2. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページによる情報発信力強化

- ①事業進捗に応じたリアルタイムの更新
- ②地域の歴史文化情報の継続的発信

(2) 多言語化対応動画

- ・YouTube「旅の星」のライブラリーの充実

(3) SNS型広報の強化

- ・Facebook、Instagram（インスタグラム）、ツイッターの適宜更新

(4) 広報ツールの作成、展示・配布

- ①外国語版関西世界遺産パンフレットの制作（関西広域連合共催）
- ②ウェブ版「歴史文化遺産の楽しみ方 in 関西」の充実

予算 7,440 千円 (H30:7,370 千円)

Ⅶ. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁を始めとした行政・各種財団等が公募する受託事業、助成金事業等獲得に取り組み、事業化を図る。

受託事業予算 1,150 千円 (H30:1,500 千円)

助成金事業予算 2,500 千円 (H30: 0 千円)

Ⅷ. 協議会運営

(事業目的・方針)

- ・各会員団体にこれまで以上に参画意識を高めていただき、公正でオープンな協議会運営を目指す。
- ・地域の情報収集を図るべく、会議・勉強会・研修など各種会合を充実させる。

(事業項目)

1. 組織体制の強化、会議体運営

(1) 協議会事務局組織体制の強化

プロパー職員の退職に伴うマンパワー減等を再雇用ならびに専門職の契約社員の採用等により補う一方、会員企業等へ出向職員要請を行い、事務局機能の強化を図る。

(2) 会議体運営

- | | |
|---------|-----------------------|
| ①総会・理事会 | 1回(6月3日(月)) |
| ②幹事会 | 1回(5月15日(水)) |
| ③専門部会 | 適宜 |
| ④全体会議 | 3回(4月24日(水)、9月、2月を予定) |
| ⑤勉強会 | 適宜 |

予算 400 千円 (H30:400 千円)

2. 事業推進

I～VIの事業を推進する。

予算 300 千円 (H30:300 千円)

3. 会員維持・増強および会員との交流機会の拡大

(1) 法人会員の拡大に取り組む。

(2) 会員との交流の機会を拡げ、法人会員との連携・協力を努める。

(3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。

現地見学会の実施 1回(下期を予定)

予算 300 千円 (H30:300 千円)

4. 要望・提案・連携活動への取り組み

- (1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。
- (2) 歴史街道計画の推進に必要な国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。
- (3) 「企画提案型事業」については、会員および関係団体を中心により積極的に企画・提案を行う。
- (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ2021、2025年大阪・関西万博開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。
- (5) 一般財団法人関西観光本部への参画
関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画していく。
- (6) 文化庁の京都移転に伴う関西全体での気運醸成のための企画について、関西広域連合や関西経済連合会等と連携し、積極的に取り組んでいく。

予算 50千円 (H30:50千円)

令和元年度	事業支出予算		(単位：千円)
I	メインルート事業	6,200	
II	ネットワークエリア事業	800	
III	日本文化体感プログラム事業	6,530	
IV	フォーラム、展示事業	2,950	
V	歴史街道倶楽部事業	17,020	
VI	広報	7,440	
VII	各種の受託研究・受託事業など	1,150	
	助成金事業	2,500	
	計	44,590	
VIII-1	組織体制の強化、会議体運営	400	
-2	事業推進	300	
-3	会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大	300	
-4	要望・提案・連携活動への取り組み	50	
	計	1,050	
	合 計	45,640	

(H30: 37,750)

令和元年度収支予算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	元年度予算額(a)	30年度予算額(b)	増減(a-b)
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①特定資産運用収入	2,000	2,000	0
②会 費 収 入	49,655,000	51,050,000	△ 1,395,000
会費収入	32,635,000	34,030,000	△ 1,395,000
個人会員会費収入	17,020,000	17,020,000	0
③事 業 収 入	1,150,000	1,500,000	△ 350,000
受託事業収入	1,150,000	1,500,000	△ 350,000
④負 担 金 収 入	19,000,000	19,400,000	△ 400,000
広報協力金収入	16,750,000	16,750,000	0
共同イベント負担金収入	2,250,000	2,650,000	△ 400,000
⑤雑 収 入	9,153,000	5,668,000	3,485,000
事業活動収入計	78,960,000	77,620,000	1,340,000
2. 事業活動支出			
①事 業 費 支 出	60,580,000	52,630,000	7,950,000
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0
要 望 活 動 費	50,000	50,000	0
広 報 費	44,590,000	36,700,000	7,890,000
給 料 手 当	11,600,000	11,550,000	50,000
福 利 厚 生 費	2,500,000	2,490,000	10,000
旅 費 交 通 費	840,000	840,000	0
②管 理 費 支 出	16,110,000	24,720,000	△ 8,610,000
給 料 手 当	0	7,520,000	△ 7,520,000
福 利 厚 生 費	280,000	1,770,000	△ 1,490,000
旅 費 交 通 費	750,000	770,000	△ 20,000
通 信 費	1,150,000	1,300,000	△ 150,000
消 耗 品 費	4,270,000	5,010,000	△ 740,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	7,200,000	6,920,000	280,000
水 道 光 熱 費	280,000	280,000	0
租 税 公 課	500,000	580,000	△ 80,000
事 務 雑 費	1,680,000	570,000	1,110,000
事業活動支出計	76,690,000	77,350,000	△ 660,000
事業活動収支差額	2,270,000	270,000	2,000,000
II. 投資活動収支の部			
①投資活動支出	4,000,000	4,000,000	0
退職金給付引当資産取得支出	4,000,000	4,000,000	0
投資活動支出計	4,000,000	4,000,000	0
投資活動収支差額	△ 4,000,000	△ 4,000,000	0
III. 予備費支出	35,870,885	35,215,376	655,509
当期収支差額	△ 37,600,885	△ 38,945,376	1,344,491
前期繰越収支差額	37,600,885	38,945,376	△ 1,344,491
次期繰越収支差額	0	0	0